

エコライフみしま



知っていますか？



市の鳥「カワセミ」



市の木「イチョウ」



市の花「三島桜」

第 3 8 号
2021/10/15

- 特集「海洋プラスチックごみ」・・・P2、P3
- プラスチックはこのように使われています・・・P4

海洋プラスチックごみ

海岸に流れ着くプラスチック。海のない三島市にとって、関係のない問題ですか？



沼津市千本浜の様子



大場川新町橋付近の様子



クイズ：大場川新町橋付近で74個のゴミを拾いました。プラスチックの割合はどのくらいでしょうか？

- ①約 20% ②約 50% ③約 75%

(答えはP 3へ)

海洋プラスチックごみ

プラスチックは安く、軽く、丈夫で、便利なものです。1950年代から使われ始め、急速に増えてきました。今では食料などの商品はほぼ全て容器・包装にプラスチックが使われています。家の中には、調理用品、保管箱、化学繊維など、プラスチックであふれており、生活に欠かせません。そして今後も増え続けていくと予想されています。

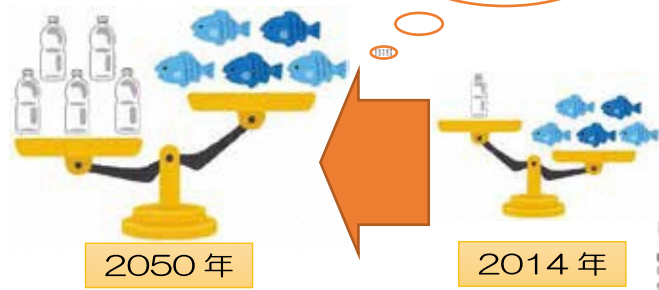
表紙の写真は沼津の千本浜海岸の現在の様子です。適正に廃棄処理されなかったプラスチックが海に流出し、漂着しています。

プラスチックは主に石油から作られ、耐久性があり、自然環境下で容易に分解されません。紫外線や外的な力で細かくなることはあっても、人の寿命と比較すると半永久的に分解されることはなく、たまっていくばかりです。

三島市には海がなくても川があります。大場川、源兵衛川、御殿川等、水はいずれも狩野川を経て海に至ります。これらの川にプラスチックごみはないのでしょうか？

海洋プラスチックごみの現状

このままプラスチックが増え続けると…

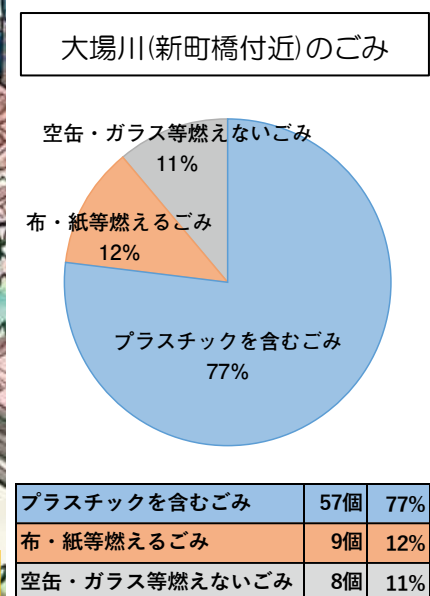


プラスチックごみの重量が魚より多くなる

世界では毎年800万トンものプラスチックごみが海に流出していると推測されています。そのうち、2〜6万トンのプラスチックごみは日本から流出していると言われています。

すでに海には1億5000万トン以上のプラスチックごみがあります。プラスチックは自然の力では分解されないため、増え続けます。このままでは、2050年、海にはプラスチックごみの重量が魚より多くなる予測されています。

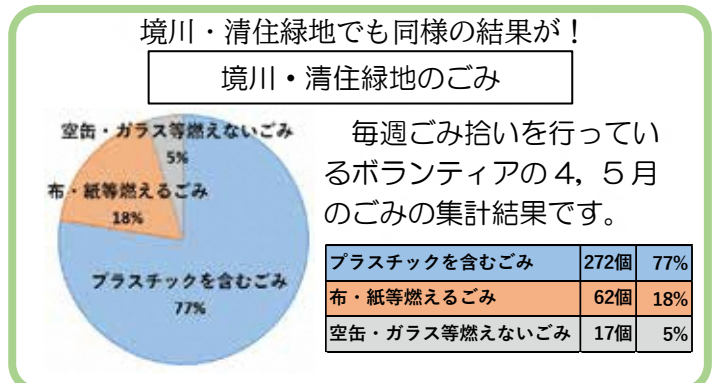
三島市の川におけるプラスチック調査



三島市内の川にプラスチックごみがどのくらいあるかを調べるため、エコライフみしま編集スタッフは、大場川新町橋付近のごみを調べてみました。2021年6月13日、大場川新町橋付近約100mを30分かけ目視で、ごみを確認しました。

26種類74個のごみが確認できました。イラストはどこにどのようなごみがあったかを示したものです。数では、タバコの吸い殻が一番多く、次にポリエチレンの袋(レジ袋)が多く見られました。プラスチックを含むもの、プラスチックを含まない燃えるごみ(紙、布等)、燃えないごみ(空き缶、ガラス等)の3つに分類してみたところ、上図の結果になりました。7割以上がプラスチックを含むごみでした。

まとめ
三島市の川にも多くのプラスチックごみがありました。街中でポイ捨てされたレジ袋、菓子の包装、ペットボトル、風雨で飛ばされたブルーシート、プラ植木鉢、発砲スチロールの箱等は川に流れ、海に流れ着きます。三島市からもプラスチックごみが海へ流れ出ていると言えます。



私たちが取り組めること

CHANGE

レジ袋 → マイバッグ

過剰包装 → 簡易包装

不要なプラスチックは使わない

プラスチックごみを減らすには、プラスチックの使用を減らすことも大切です。

特に、一度使用するとごみになってしまふ、使い捨てプラスチックの使用をできるだけ減らしましょう。使い捨てであるが故、簡単に捨ててはいませんか？ペットボトルの代わりにマイボトル・水筒、レジ袋の代わりにマイバッグを持ち歩く、使い捨てスプーン、ストロー等は受け取らない、簡易包装の商品・資源回収ができる商品を選択するなどできることから始め、自分の生活を見直してみよう。

ポイ捨てしない

海洋ごみの8割が街から出たことと言われています。街で捨てられたごみが雨・風によって、川に入り、海に流れ着きます。他の人がポイ捨てをしていると、新たなポイ捨てを生み出します。自分が出したごみは、持ち帰り、正しく処理をしましょう。

ごみを拾う

ごみはない方がよいものとは分かってはいるものの、なかなか拾う人はいません。道端に落ちているごみを拾うだけで、その場所だけでなく、川や海をきれいにするにつな갑니다。三島市では、ごみ拾い活動が開催されていますので、ぜひ参加してみましよう。




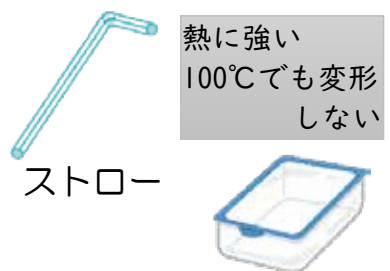

海の環境を守るためには一人一人がプラスチックを正しく処理すること、プラスチックの必要以上の使用を控えることが重要になります。生活に欠かすことのできない便利なものだからこそ、上手に付き合っていくことが必要です。

表紙の答え
③約75%



プラスチックはこのように使われています

プラスチックには様々な種類があり、下記は代表的なプラスチックの種類です。

PET ポリエチレンテレフタレート	PE ポリエチレン	PVC ポリ塩化ビニール
 <p>透明 圧力に強い</p> <p>ペットボトル 卵パック</p>	 <p>油や薬品に強い 加工しやすい</p> <p>レジ袋 シャンプーなどのボトル</p>	 <p>薬品に強い 燃えにくい</p> <p>パイプ管 ホース</p>
PP ポリプロピレン	PS ポリスチレン	<p>プラスチックは 自由に形を作れるため、 いろいろなところに 使われています。</p>
 <p>熱に強い 100℃でも変形 しない</p> <p>ストロー 食品密閉保存容器</p>	 <p>断熱保温性が高い 透明で固い</p> <p>食品トレイ CDケース</p>	

三島市ではペットボトル（ラベル、キャップを取り外したもの）、ポリスチレンの白色の食品トレイ、発泡スチロールを資源回収しています。また、店頭回収ボックス等を設置し、ペットボトルや食品トレイ等を回収して、積極的に資源の循環（リサイクル）に取り組まれている店舗もあります。

※店頭回収を利用される場合は、「水洗いをして、乾かしてから入れる」「ペットボトルのラベルをはがす」「回収対象物以外のものは絶対に入れない」等、店舗のルールやマナーを必ず守って、ご利用ください。



【編集後記】

『ポイ捨ては ゴミ捨て場の 火付け役』
これは私が作った川柳ですが、人間の心理として、1つのごみが落ちてると、ごみを捨ててしまいます。しかし、ごみのないきれいな場所では、ごみを捨てるのを思い留まります。
一生懸命清掃活動に参加してきれいな環境づくりに尽くしている人と、その陰に回って、ごみを捨て、善意を踏みにじている人、どちらが貴いと思いますか？考えるまでもありませんね。これまでポイ捨てをしてきた人は今すぐやめて、善意の仲間入りをしましょう。

『ポイ捨ては ゴミと一緒に 人格捨てる』（あ）

【編集スタッフ（市民ボランティア）】 青木博・飯田喜一・大村洋子・武井功・西垣美保・西名秀芳・堀江紗代・山本京二

第38号（5月・10月の年2回発行）

令和3年10月15日発行

〒411-0858

静岡県三島市中央町5-5

三島市役所中央町別館

環境政策課内

「エコライフみしま」編集事務局

TEL:055-983-2647

FAX:055-976-8728

E-mail:kankyout@city.mishima.shizuoka.jp

一緒に『エコライフみしま』を作りませんか。ご興味のある方は、上記環境政策課までご連絡ください。